

2016 5/10

No.2018

毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



「第41回野毛大道芸」が4月23、24日催された。30周年を迎えた今回は海外4カ国を含め、50組約200人のトップパフォーマーが参加。ダンスやアクロバットなど華麗なパフォーマンスを披露した。



政経かながわ

2016 5/10 No.2018

contents

視点・点描	3
井伊大老が見つめる横浜	
講演録	4
私の歩いてきた道～みずいろの手紙と私 歌手 あべ 静江	
社会	8
「街の将来像」議論し共有を 商店街活性化のヒント	
社会	10
3年目を迎えた「地方創生」 地域連携が成功の鍵に	
政治	12
政治の「劣化」を憂う 欧米メディアも強い関心	
くらし2016	14
肺がんに注目の免疫療法	
広告珍談	16
広告はたのしい⑯ わがはいは、ネコだぞ！	
NNAアジア経済リポート	17
会員のページ	18
設立50周年は4月19日(その22)講演録抄録⑫ 会員の動き	
会員のページ	19
設立50周年は4月19日(その22)講演録抄録⑫	

事務局だより

◇横浜定例講演会

2016年5月12日(木)

午後1時30分～3時

ロイヤルホールヨコハマ5階

「リビエラ」

講師は日本銀行横浜支店長の
岩崎淳氏

演題は「最近の金融経済情勢
について」

◇横浜定例会

2016年6月2日(木)

午後1時30～3時

横浜ベイシェラトンホテル＆
タワーズ4階「浜風」

講師は政治アナリストの伊藤
惇夫氏

演題は「参院選と安倍政権の
行方」(仮題)

視点



井伊大老が見つめる横浜

桜の名所として知られる横浜の掃部山公園には、周囲を見下ろすようにたたずむ衣冠束帯姿の銅像がある。これが、かの「安政の大獄」の主導者として名高い井伊直弼であると知ったのは、恥ずかしながらかなり長じてからであつた。学校で習うことがあつても、さほど興味を抱かなかつたのだろう。

井伊直弼は彦根藩主から幕府大年を迎えた1909年。井伊大老

老に登りつめ、1860年に水戸藩士らにより暗殺された。いわゆる「桜田門外の変」は映画やドラマにも取り上げられているので知る人は多い。ところが著名人とはいえ、彦根の井伊大老がなぜ横浜の公園で、みなとみらい21地区のビル群を眺めているのか。

いざれの方向を目指したらよいのか、さまざまな思いが交錯する時代。これは井伊大老が生きた時代と重なる。反対者をことごとく

を横浜開港の功労者としてたたえたい旧彦根藩士らの悲願であつた。彼らは現在の公園一帯を買い取り、ついに夢を実現したのだ。だが当時はまだ、施政にあらがう人たちを弾圧した安政の大獄の記憶が残り、恨みに思う人が多かつたのだろう。強い反発にさらされたという。滋賀県彦根市などには、今も井伊大老を開国の大役者として敬う人が少なくない。

いまさらどうしてこんな話を、と思われるかもしれない。日本は経済が落ち込み、人口減少により地方の存続さえ危ぶまれる状況である。第三諸国の台頭で世界の勢力地図も大きく変わり、外交面でも岐路にある。

いざれの方向を目指したらよいのか、さまざまな思いが交錯する時代。これは井伊大老が生きた時代と重なる。反対者をことごとく排除した政治は、方向を誤り甚大な損失を招いたとは思うが「日本のために」という熱意のゆえであつたかも知れない。国の存亡の危機にあって、さまざまな意見が過激に対立した。そして多くの才が世に現れ、天命を果たしたかのようになつていった。

(神奈川新聞文化部部長)

丸山 孝

わがはいは、ネコだぞ！

図をどうぞ。

右は「吾輩ハ猫デアル」、左は島崎藤村の小説「破戒」。どちらも単行本になつて、発刊の広告。「猫」は1905（明治38）年、「破戒」は翌年の06（明治39）年。版元はちがうが広告はいずれも、時事新報に掲出された。

いが、五葉クンの装丁もすばらしいと賛美した作品。橋口は鹿児島出身で、庭に五葉松があり、それが画号になつた。日本画を橋本雅邦に学び、洋画は黒田清輝が主宰する白馬会で研鑽。綿絵の技法

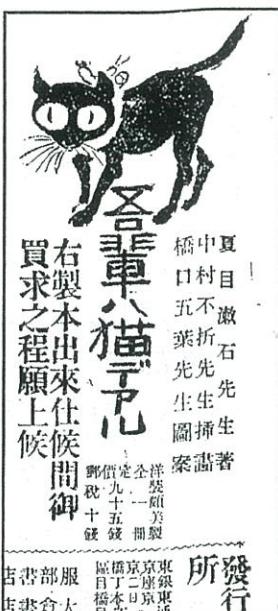
—この本は、2年間の文学的勞作より得たる新しき收穫なり。畫中写すところは種々の生活状態に触れて光景多様なりといえども要するに鬱勃たる新興の精神をもつて全編を貫きたり。「版本の

かに570ページ余りとは、分厚いけれど。

ところが、「今や新緑幽書を携ふるの時季なり」とは大きなお世話。なのに「請ふ、精読を賜へ」と。

五六版とは、書物寸法のひとつ。四寸二分（127ミリメートル）、高さ二分（188ミリメートル）。単行本の多くは、このサイズである。

素質はすべて読者のために親切ならんことを旨とし、紙数多きにかかわらず、特に廉価をもつて発表す」とは、恩に着せすぎだ。たし



さいの廣告である。藤村先生はお怒りにならなかつたのかな。

1881(明治14)年、藤村は生まれた木曽馬籠から上京。翌年、「破戒」を自費出版。自然主義小説として激賞され、作家として地位を築いただけに、こんなつまらぬ廣告文では、読者が不愉快だったのではないか。とかく書物の広告はむつかしい。

(美術工ツセイスト、茅ヶ崎市在住)
(図)「猫」の広告は1905(明治38)年、「破戒」は06(明治39)

ら、さし絵を描いた。軽妙な描写で、クシヤミ先生の飼い猫が擬人化された主人公。広告のイラストも、不折の作だろう。

藤村の「破壊」とある。

単行本の表紙は、五葉がデザインした。漱石が自分の文章もうま

方

がさし絵、

戒」は鎌木清

千曲川流域の

図入りとある。

「戒」は鎬木清方がさし絵、千曲川流域の図入りとある。